

気候変動が既知のヒトの病原性疾患に与える影響

Erik Franklin

ハワイ海洋生物学研究所 海洋生態学 准教授

気候変動がヒトの病原性疾患に影響を及ぼし得ることは比較的広く受け入れられているが、このリスクの程度はまだ十分に定量化されてはいない。そこで我々は、温室効果ガス（GHG）排出の影響を受ける10種類の気象災害が、既知のヒトの病原性疾患に与える影響について、経験例の系統的な検索を行った。世界全体でヒトが直面する感染症の58%（375疾患中218疾患）は、ある時点で気象災害により悪化し、16%は時に減少したことが分かった。経験例から、異なる伝播様式を介して気象災害が病原性疾患につながった1,006の特有の経路が明らかになった。気象災害により悪化するヒトの病原性疾患と伝播経路は、社会が包括的に適応するにはあまりにも数が多く、問題の根源、すなわちGHG排出の削減に緊急に取り組むことの必要性が強調された。